



令和8年 9月 1 日
佛教大学附属こども園

「仏教保育 8月のねらい」

じりりた
自利利他

「仏教保育 9月のねらい」

ほうおんかんしゃ
報恩感謝

「小さな触れ合いで育まれるもの」

先日、京都大学で「心と脳の育ち」を研究されている^{みょうわまさこ}明和政子先生の研修会に参加しました。先生のお話は、子どもの発達を支える環境や関わり大切さについて深く学ぶ時間となりました。中でも私の心に残ったのは、「子どもの心は、日々の小さな触れ合いの積み重ねによって育っていく」という言葉です。

お話を聞きながら、園での子どもたちの姿が次々と浮かんできました。友だちと手をつないで歩く姿、顔を寄せ合ってひそひそ話をしている姿、名前を呼ばれて嬉しそうに振り向く表情、先生と目と目を合わせて笑いあっている姿……。こうした何気ない関わりの一つひとつが、子どもの心に「安心」や「つながり」を育てているのだと改めて感じました。

もちろん、私たち大人も子どももいつも安心だけを感じているわけではありません。思い通りにいかずにモヤモヤして心が大きく揺れることもあります。しかし、そうした経験こそが、自分の気持ちに気づいたり、相手の気持ちを想像したり、気持ちを調整したりする力へと繋がっていきます。そして、それは子どもだけではなく、私たち大人にとっても同じように大切な経験だと感じています。

嬉しい、楽しい、悲しい……と揺れ動く気持ちにそっと寄り添ってくれる誰かがいる安心感は、子どもも大人も変わらないでしょう。こども園では、子どもが気持ちを表現しやすいよう、言葉だけでなく、表情やしぐさ、身体の動きにも丁寧に寄り添いながら関わることを大切にしています。保育者にそっと触れられて安心したり、友だちと笑い合いながら手をつないだりする時間は、子どもにとって心の土台をつくる大切な経験です。

きつとご家庭でもお子さんとこのようなやり取りがたくさんあることと思います。これからぜひスキンシップをとったり、目を合わせて微笑んだり、「こう思ったんだね」と気持ちを肯定的に受け止めて言葉にしたりしながら、子どもたちが発している“気持ちのサイン”にそっと寄り添っていただければと思います。2学期も、子どもたち・保護者の皆さま・教職員が、互いにつながりを大切にしながら、安心して過ごせるこども園でありたいと思っています。

(宇佐美)

